

幼児教育・子育て支援

1. 幼児教育の充実

社会的な潮流と課題

少子化と夫婦共働きの傾向が強まるなか、「子ども・子育て支援法」が施行され、子育て支援のニーズが一層高まっており、幼児教育の面でも様々な対応が求められています。

女性の社会進出が進むなか、子どもの預け先として幼稚園より保育園を選択するケースが増えており、幼稚園・保育園の運営方針の検討も求められています。

また、幼稚園教諭・保育士が誇りをもって働けるよう処遇改善等を図ることにより、子どもたちの育つ環境をよりよくすることも重要です。

解決に向けた町の取り組み

町でも、幼児期の教育や乳幼児期の保育環境の充実を図っているところです。

今後は、幼保一元化^{※1}や認定こども園^{※2}の設置とともに、学童保育の効率的な運営や老朽化した保育施設の改修等に取り組む必要があります。

基本方針

- 町民の保育ニーズを的確に把握し、待機児童ゼロを目指した事業を推進します。
- 安心して子育てができる環境整備に努めます。
- 子育てにかかる経済的負担の軽減について検討します。



西部保育園園児と力士との交流



子育て交流センターおはなし会

※1 幼保一元化：幼稚園と保育園の一元化を図ろうとする政策のこと

※2 認定こども園：教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育園の両方の良さを併せ持っている施設のこと

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

幼児教育・子育て支援

施策の基本方向

- (1) 幼児教育・保育の充実
- (2) 待機児童ゼロを目指した保育ニーズへの対応
- (3) 幼保一元化の検討
- (4) 幼稚園教諭・保育士の確保と資質の向上

主要事業

- ▶ 幼稚園運営事業
- ▶ 保育園運営事業
- ▶ 留守家庭児童保育所運営事業
- ▶ 幼保一元化の検討事業
- ▶ 教諭・保育士の研修事業
- ▶ 老朽化した施設の改修事業
- ▶ 特別保育充実事業

協働の視点

将来に向けて待機児童ゼロを目指し官民一体となってこの問題に向き合っていきましょう。
保護者による幼稚園・保育園と連携した家庭の教育力の向上を図りましょう。

めざす目標

保育園・認定こども園の保育定員の増員
現状数値(2016年度)・・・525人 目標数値(2021年度)・・・640人
幼稚園での一時預かり事業利用者
現状数値(2016年度)・・・20人 目標数値(2021年度)・・・80人



西部保育園増築の上棟式



みのり幼稚園もちつき

総論

1 将来都市像の実現に向けて

2 基本計画の施策体系

3 基本目標と取り組み

基本目標1
環境・防災

基本目標2
社会基盤

基本目標3
健康・福祉

基本目標4
教育

基本目標5
産業

基本目標6
交流・にぎわい

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

幼児教育・子育て支援

2. 子育て支援の充実

社会的な潮流と課題

次世代の社会を担う子ども一人ひとりの成長を社会全体で応援するため、子育てにかかる経済的負担の軽減や、安心して子育てができる環境整備が求められています。

平成27年4月に施行した「子ども・子育て支援新制度」は、地域の子ども・子育て支援に関する量の拡充や質の向上を図ることで、すべての子どもが健やかに成長できる社会の実現を目指しており、少子化対策との両輪で、様々な取り組みが行われています。

「子ども・子育て支援法」の施行以降、より高まっている保育需要に対し、行政として保育を適正に供給することの責任が求められています。

解決に向けた町の取り組み

町では、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに向けて「函南町次世代育成支援行動計画」を策定し、次世代を担う子どもが健やかに育つ社会づくりを目指して、様々な子育て支援に取り組んできました。

一方、近年の少子化や核家族化の進行、地域コミュニティの希薄化等により、家庭や地域での子育て力の低下や育児に不安や悩みを抱く親が増加しています。また、女性の社会進出や就労形態の変化等により、多様化する子育てニーズに対応できる環境づくりが求められています。

こうした背景のもと、国では、「子ども・子育て支援新制度」が実施されています。町でも、平成27年3月に「函南町子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。この計画に基づき、子どもの健やかな成長と保護者の子育てを社会全体で支援する環境を整備するために、町が取り組むべき対策と達成しようとする目標等を明らかにし、計画的に推進する必要があります。



知恵の和館夏休みわくわくまつり

総論

1 将来都市像の実現に向けて

2 基本計画の施策体系

3 基本目標と取り組み

基本目標1
環境・防災基本目標2
社会基盤基本目標3
健康・福祉基本目標4
教育基本目標5
産業基本目標6
交流・にぎわい

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

幼児教育・子育て支援

基本方針

- 安心して出産・子育てができる環境の充実に努めます。
- 家庭・地域・企業が一体となって、次世代を担う子どもが健やかに育つ地域づくりに努めます。

施策の基本方向

- (1) 子どもが健やかに成長できる環境づくり
- (2) 子育て支援ボランティアの育成
- (3) 児童手当、こども医療費補助制度等の経済的支援の継続

主要事業

- ▶ ファミリー・サポート・センター事業
- ▶ 子育てふれあい交流センター事業
- ▶ ボランティア養成事業
- ▶ 子育てガイドブック配布事業
- ▶ 子どもの安全確保事業
- ▶ 子育て世代への経済支援事業
- ▶ 母子保健相談事業
- ▶ 食育推進事業
- ▶ 妊婦相談事業



子育てガイドブック

協働の視点

地域との協働により講座や行事を実施しましょう。

子育て支援のボランティアに参加し、子どもたちと関わりましょう。

めざす目標

子育て交流センター相談受付件数（年間）
現状数値（2015年度）・・・300件 目標数値（2021年度）・・・400件
函南町ファミリー・サポート・センター会員数
現状数値（2015年度）・・・37人 目標数値（2021年度）・・・70人



子育て交流センターふれあいプラザで遊ぶ子どもたち

総論

1 将来都市像の実現に向けて

2 基本計画の施策体系

3 基本目標と取り組み

基本目標1
環境・防災

基本目標2
社会基盤

基本目標3
健康・福祉

基本目標4
教育

基本目標5
産業

基本目標6
交流・にぎわい

学校教育

1. 義務教育の充実

社会的な潮流と課題

近年のグローバル化の進展や生産年齢人口の減少等の社会の変化は、学校教育にも大きな影響を及ぼしています。

また、日本の子どもの貧困率は年々悪化しており、児童生徒の学力に家庭状況等の社会経済的な背景が影響を与えています。

個別の指導を要する特別支援教育対象となる児童生徒は増加し、多様な支援と指導が求められています。いじめ、不登校、児童虐待等の諸問題は複雑・多様化し、学校だけでは対応が困難なケースも増えています。

解決に向けた町の取り組み

町では、多様化・困難化する学校の諸問題に対し、学校機能の強化・支援に取り組んできました。

近年では、小規模校の存続の検討や特別支援教育の充実として、支援員の配置、支援学級の増設・新設、通級指導教室の拡充、町単独のこたばの教室の継続等が求められています。

また、学校機能強化・連携への支援として、教育支援センターの充実も不可欠です。

就学援助等の経済的な支援の継続、拡充とともに、次期学習指導要領への対応として、アクティブ・ラーニングによるICT※¹の整備、小学校外国語科導入によるALT※²の充実等を図っています。

基本方針

- 「次世代の学校」創生のための指導体制づくりを推進します。
- 学校力を強化する組織運営の改善を進めます。
- 「地域とともにある学校」への転換を図ります。
- 次世代の郷土をつくり支える人材の育成に努めます。

施策の基本方向

- (1) 指導体制の充実と支援体制の強化
- (2) 「チーム学校」の体制構築とマネジメント機能の強化
- (3) コミュニティ・スクールの導入と推進
- (4) 地域が学校のパートナーとして子どもの教育に関わる
- (5) 郷土学習等の地域学校協働活動の支援

主要事業

▶ 学校力向上推進事業

- ・ 学力向上に向けた指導・支援体制の充実
- ・ 道德教育の充実と推進
- ・ いじめ・不登校・問題行動等への対応力強化
- ・ 特別支援教育および発達障害児への支援・指導の強化

協働の視点

家庭・学校・地域社会がともに協力し、関係組織・機関との連携を図りましょう。

学校支援ボランティア活動に参加しましょう。

地域で子どもを見守りましょう。

めざす目標

「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合

現状数値（2015年度）	92.1%
目標数値（2021年度）	95.0%

「学校は信頼でき、地域とともに教育活動が進められている」と答える保護者等の割合

現状数値（2015年度）	87.9%
目標数値（2021年度）	95.0%

2. 教育環境の整備

社会的な潮流と課題

学校は、児童生徒が一日の大半を過ごす重要な空間です。安全で安心して学べる環境づくりのため、静岡県では、耐震化に関する判定基準を設けました。

「教育のIT化に向けた環境整備4か年計画」に基づき地方財源措置が講じられ、デジタル教科書の使用や校務支援システムの導入推進が図られています。

児童生徒の生きる力を育むための教育環境整備の充実は不可欠であるといえます。

解決に向けた町の取り組み

町では、平成19年度以降、耐震化が必要な建物を対象に、耐震補強を最優先で実施してきました。

町の教育施設は建築から35年以上経過している建物がほとんどで老朽化が著しく、現在、小中学校7校中2校の大規模改修が完了している状況で、引き続き教育環境の改善に取り組みます。

教員の校務を効率化し、子どもと向き合う時間を増やすため校務支援システムを導入しました。より一層オペレーションの習熟に努め、効率的な運用を図ります。

基本方針

- 学校施設、設備の充実による安全安心、多様な学びに対応できる教育環境をつくります。
- 優先順位をつけて、計画的に大規模改修を行います。
- 学校におけるICT教育環境整備と同時に教員研修を行い、指導力を育成する体制を整え強化していきます。

施策の基本方向

- (1) 安全で安心な次世代の教育環境づくりのための施設整備の充実
- (2) 設備・システムの整備と同時に各学校教員の研修や連携

主要事業

- ▶ 次世代の学校環境等改善事業
 - ・ 大規模改修による安全・快適な環境づくり
 - ・ ICTを活用した教育活動の推進
 - ・ トイレの洋式化
 - ・ 教室等へのエアコンの設置
 - ・ 学習環境および学校の周辺整備

協働の視点

学校支援ボランティア活動に参加しましょう。
学校の環境整備活動に参加しましょう。

めざす目標

小中学校校舎老朽化による 大規模改修完了数(全7校中)	
現状数値(2015年度)	2校
目標数値(2021年度)	5校

タブレット端末の整備数	
現状数値(2015年度)	各中学校 30台 各小学校 0台
目標数値(2026年度)	函南中学校 150台 東中学校 170台 各小学校 30台

※1 ICT: Information and Communication Technology の略語で情報通信技術(パソコン・電子黒板・校内LAN等)のこと
※2 ALT: Assistant Language Teacher の略語で外国語指導助手のこと

社会教育

1. 生涯学習の推進

社会的な潮流と課題

生涯学習は、人々が自己の充実や生活の向上のため生涯を通じて行う活動のすべてを示します。

平成20年に中央教育審議会で、新しい時代を切り開く生涯学習の振興策として「知の循環型社会」の構築が提言されました。社会・経済の変化に伴う学習需要への対応と、学習者自身の技能・経歴の向上や社会制度の基盤である人材育成につながるなど、重要な意義を持つ生涯学習は、社会・経済の発展が期待されます。

解決に向けた町の取り組み

町民一人ひとりが、生涯にわたって自ら学ぶとともに、学んだ成果を活かして自己実現を図る生涯学習社会を推進することが重要です。町では青少年学習事業、成人学習事業等を実施し、年代に合わせた多様な学習機会を提供しています。

自発的な生涯学習を支援するために、ボランティア講師を登録し、紹介することにより町民に自身の学習成果やキャリアを活用する機会や場を提供しています。

基本方針

- 町民の各年代における多様な学習ニーズに対応した各種講座・イベントを開催します。
- 自らの学習や経験で身につけた知識と技能を活かし、人に教えることによりさらに学ぶというサイクルの活性化により、「知の循環型社会」の構築を図ります。
- 快適な学習環境を提供するため、文化センターおよび各施設の計画的な維持管理に努めます。

施策の基本方向

- (1) 多様なニーズに応える学習機会の拡充
- (2) 学習の成果を活かす発表の場の確保
- (3) 文化センターを中心とした学習環境の適切な維持管理と整備充実
- (4) 生涯学習指導者および講師の確保



函南町文化祭（発表の部）



函南町文化祭（展示の部）

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

社会教育

主要事業

- ▶ ライフスタイルに合わせた生涯学習事業の充実
- ▶ ボランティア講師の人材バンクの促進および活用
- ▶ 自治会、子ども会、スポーツ団体、ボランティア団体等が実施する社会教育活動、地域活動等への支援事業の推進
- ▶ 生涯学習活動推進のための拠点施設の整備充実

協働の視点

ボランティア講師の人材バンクを利用し、自治会主催イベント等への講師派遣を促し、地域での学習機会を創出しましょう。

社会教育活動、地域活動等へ積極的に参加しましょう。

生涯学習を通してともに学ぶ仲間に出会い、人と人のつながりを深め広げましょう。

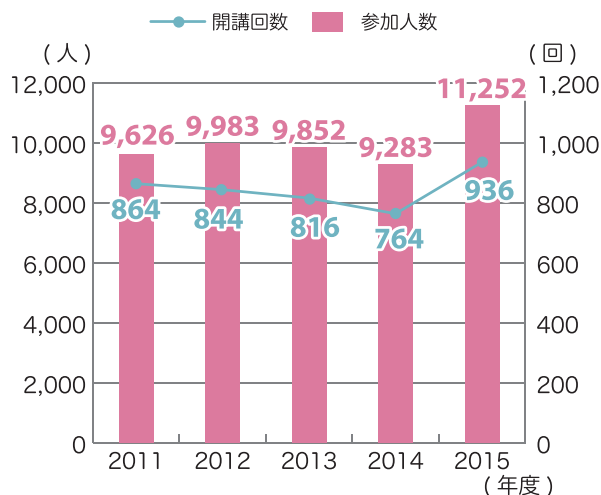
めざす目標

文化センター利用者数（年間）

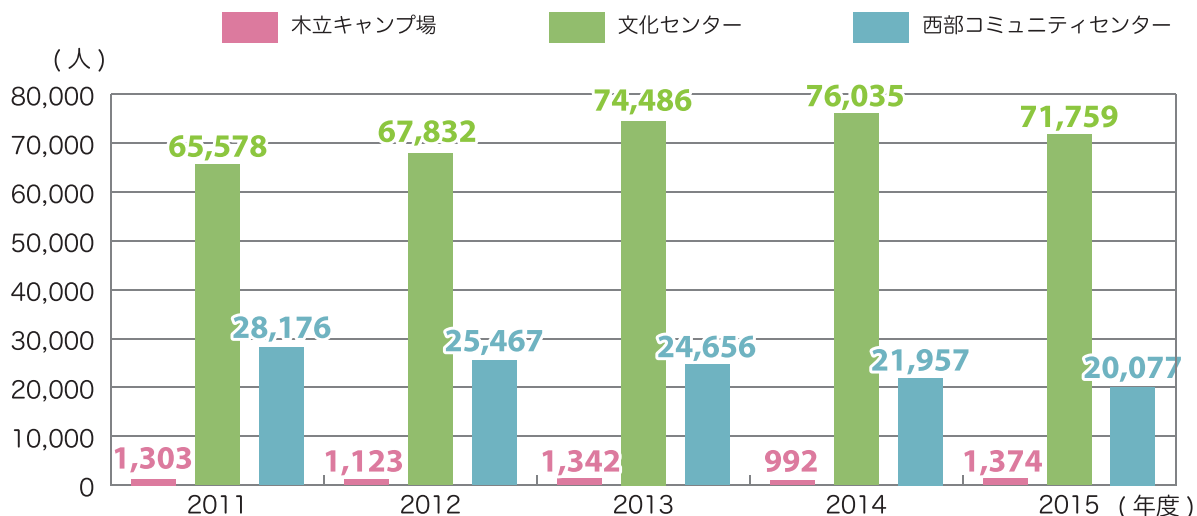
現状数値（2015年度）・・・71,759人
目標数値（2021年度）・・・80,000人

※ 文化のプラザを含む

かなみ生涯学習塾開講状況



生涯学習施設の利用状況



総論

1 将来都市像の実現に向けて

2 基本計画の施策体系

3 基本目標と取り組み

基本目標1
環境・防災基本目標2
社会基盤基本目標3
健康・福祉基本目標4
教育基本目標5
産業基本目標6
交流・にぎわい

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

社会教育

2. 青少年健全育成の充実

社会的な潮流と課題

地域社会における人間関係の希薄化や多くの情報が氾濫している社会状況等、様々な要因が、次世代を担う青少年たちを取り巻いており健全な育成を阻害している面があります。

実際に、少年非行の低年齢化、凶暴化等深刻な社会問題となりつつあります。

解決に向けた町の取り組み

青少年が健全に成長できる環境を守るためには、地域社会が一体となって、各種活動を推進することが重要です。

町では、青少年健全育成大会を毎年実施し、インターネット社会に対する注意喚起を行うとともに、あいさつ運動やパトロールを定期的に実施しています。

関係機関・関係団体との連携を深め、町全体で活動を広げていく必要があります。

基本方針

- 心豊かな青少年を育てるため、家庭や地域社会が一体となって青少年健全育成に努めます。
- 青少年に学習・交流の場と機会を提供し、教育相談・指導体制の充実に努めます。

施策の基本方向

- (1) 青少年健全育成活動の充実
- (2) 地域における交流
- (3) 相談・指導体制の充実

主要事業

- ▶ 青少年の地域行事への参加促進
- ▶ 青少年健全育成大会、体験活動、学習活動、サークル活動の充実
- ▶ 青少年の健やかな成長を阻害する要因を排除するための活動への支援
- ▶ 青少年の健やかな成長を見守るための体制整備

協働の視点

青少年に関わる有害環境のない社会を目指しましょう。

地域の子どもは、地域で育てましょう。

青少年育成活動に積極的に参加しましょう。

地域からの声かけやあいさつを推進しましょう。

めざす目標

あいさつ運動参加者数（年間）

現状数値（2015年度）・・・1,000人
目標数値（2021年度）・・・1,500人



青少年健全育成大会

3. 男女共同参画社会の推進

社会的な潮流と課題

平成27年度に、「女性活躍推進法」に基づく特定事業主行動計画が策定され、女性の社会進出が求められています。

子育て支援の充実、介護支援の充実、生涯にわたる健康支援等とともに、セクハラ防止・女性リーダーの育成・審議会等委員への女性の登用等、多くの分野にまたがり推進されています。

また、東日本大震災においての避難所の状況を踏まえ、防災計画に男女共同参画の視点を盛り込むことが求められています。

解決に向けた町の取り組み

男女共同参画社会の形成は、学校・職場・地域社会それぞれで取り組むことが重要です。

社会を構成する男女が、互いにその人権を尊重し責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が求められています。

町でも「函南町男女共同参画に関する計画」の見直しを進め、総合的な取り組みを推進していきます。

基本方針

- 町の各種事業をはじめとして、あらゆる機会を捉え、性別による固定的役割分担意識や社会慣行の見直しなどを率先して行います。
- 男女共同参画を盛り込んだ防災計画づくりや審議会等委員への女性登用を増やします。

施策の基本方向

- (1) 認め合う人づくり
- (2) 参画する社会づくり
- (3) 働きやすい環境づくり
- (4) 安心して暮らせる地域づくり

主要事業

- ▶ 男女共同参画の視点を盛り込んだ防災計画の作成
- ▶ 女性リーダーの育成・審議会等委員への女性の登用参画の推進
- ▶ ワークライフバランスの推進
- ▶ あらゆる差別、暴力の根絶

協働の視点

性別による固定的役割分担意識をなくしましょう。
学校・職場・地域社会において男女それぞれを認め合い尊重しましょう。

安心して子育てや介護ができるまちづくり、地域づくり、家庭づくりをしましょう。

育児休業制度や介護休暇制度を知り取得しましょう。

地域活動に進んで参加し、みんなが安心して暮らせる「居場所づくり」をしましょう。

困ったことがあったら相談できる人を持ちましょう。

めざす目標

審議会等における女性の登用率	
現状数値(2016年度)	27.2%
目標数値(2021年度)	33.0%

4. 情報拠点としての図書館の充実

社会的な潮流と課題

平成22年文部科学省に「国民の読書推進に関する協力者会議」が設置され、読書環境の現状分析や読書意識を高める取り組みの検討が行われるなど、国をあげて読書活動の推進に取り組む契機となりました。

さらに、図書館を取り巻く社会環境の変化として電子書籍の台頭が顕著となっています。

文化庁でも、平成22年に「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」が設置され、デジタル・ネットワーク社会における図書館と公共サービスのあり方について検討がはじめられています。

平成24年には図書館法に基づく「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が改正され、地域の情報拠点としての図書館が明記されました。

静岡県でも「読書県しずおか」を掲げ、読書推進に取り組んでいます。今後の課題としては、読書を通じて文化の向上に努め、人に優しいまちづくりのために、赤ちゃんから高齢者までの生涯にわたる学びを支える読書活動の推進をさらに高めていくことです。

解決に向けた町の取り組み

町民の知への要求が高まり、知的要求を満たす手段が多様化してきたことで、図書館に求められる役割や機能が変化してきました。

町では、平成25年に函南町立図書館をオープンし、「読書のまち・かななみ」を宣言しました。

また、読書の支援だけでなく、問題解決に必要な資料・情報の提供、蔵書資料の有効活用等学習活動支援も行っています。加えて、広報紙・図書館ホームページ・館内特集展示等を通じて、積極的に情報発信を行っています。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行を受けて策定した「第二次函南町子どもの読書活動推進計画」に基づき、ブックスタート事業、おはなし会、小中学校児童生徒の図書館見学および中学生・高校生の職場体験等を実施し、学校との連携も図っています。

また、「障害者差別解消法」の施行を受けて町では、障がい者および高齢者を対象とした「図書館資料宅配サービス」を開始し、一層のサービスの充実を図っています。

読書のまち・かななみ宣言

読書は、わたしたちの心を豊かにし、人生をより深く生きるための知恵をもたらしてくれます。読書を通じて、文化の向上につとめ、人にやさしいまちをつくりましょう。生涯にわたり、読書を楽しむ人があふれるまちをめざして、函南町はここに、「読書のまち・かななみ」を宣言します。

- ・親子や家族、みんなで本を読みましょう。
- ・保育園や幼稚園の子どもたちは、絵本とともだちになりましょう。
- ・児童や生徒は、たくさん本に親しみ、読書習慣を身につけましょう。
- ・地域のことを知り、人生を深く味わうために、本から学びましょう。
- ・町ぐるみで、読書に親しむ環境を作りましょう。

平成25年4月 函南町

教育

社会教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

基本方針

- 知識と情報の拠点として図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実を図ります。
- 利用者からの様々なニーズに応じて、問題解決に必要な資料を収集し情報提供に努めます。
- 「函南町子どもの読書活動推進計画」に基づき、図書館と学校・地域・家庭との連携を強化し、推進体制の整備・充実に努めます。
- ボランティア等に活動の機会や場所を提供していくとともに、協力体制を強化し活動の支援を行います。加えてボランティアのスキルアップを目的とした研修を開催していきます。
- 多世代交流の場として、他機関と連携し交流の場を提供していきます。
- 快適な利用環境を維持していくとともに、急速に進んでいる情報媒体の多様化に対応できるようシステムの整備を図ります。併せてデジタル情報サービス提供の可能性について、調査・研究を進めます。

施策の基本方向

- (1) 資料収集・除籍方針に基づいた計画的な蔵書構築
- (2) 赤ちゃんから高齢者まで、様々なニーズに合わせた図書館サービスの充実
- (3) 他機関と連携し、地域に必要な情報の発信
- (4) 効率的な管理システムの構築と環境整備
- (5) 図書館資料の電子情報化の推進
- (6) ボランティア活動の支援



子ども図書館おはなし会

主要事業

- ▶ 図書館資料の収集・保存と情報提供
- ▶ 「函南町子どもの読書活動推進計画」事業の推進
- ▶ ライフステージに合わせた読書活動の推進
- ▶ 図書館資料の電子情報化の推進

協働の視点

図書館ボランティアへの登録と積極的な参加を図りましょう。

ルールやマナーを守って図書館を利用しましょう。

めざす目標

町民1人あたりの資料貸出点数（年間）

現状数値（2015年度）・・・ 8.7点
目標数値（2021年度）・・・ 8.8点



7か月児へのブックスタート事業

総論

1 将来都市像の実現に向けて

2 基本計画の施策体系

3 基本目標と取り組み

基本目標1
環境・防災基本目標2
社会基盤基本目標3
健康・福祉基本目標4
教育基本目標5
産業基本目標6
交流・にぎわい

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

社会教育

5. スポーツ・レクリエーションの推進

社会的な潮流と課題

スポーツは、人格の形成・体力の向上・健康長寿の礎であるとともに、地域の活性化やスポーツ産業の広がりによる経済的効果等、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成するうえで欠かすことができません。

国のスポーツ立国戦略では、「スポーツ立国戦略の目指す姿」を実現するため、「1. 人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視」「2. 連携・協働の推進」を基本的な考え方に据え、ライフステージに応じたスポーツ機会の創造、世界で競い合うトップアスリートの育成・強化等、5つの重点戦略を掲げています。

解決に向けた町の取り組み

町では、「かなみスポーツ健康フェスタ」や「ニュースポーツ大会」を、函南町スポーツ推進委員会との連携により開催しています。

また、運動公園が平成26年4月に開園し、「スポーツのまち函南」を宣言しました。今後、公園におけるスポーツ施設機能の向上や施設への案内・誘導サインの設置を含め、スポーツの推進に向けて一層活用していくことが期待されています。

2020年東京五輪では、伊豆市で自転車競技の開催が決定し、スポーツに対する盛り上がりが見られています。

基本方針

- スポーツ・レクリエーションのための整備を行い、町民・民間が施設を利用しやすい環境づくりに努めます。
- スポーツ推進計画に基づき、アクションプランの達成を目指します。
- スポーツを「する・みる・ささえる」を醸成させるプログラム作成に取り組みます。
- 年1度開催している「かなみスポーツ健康フェスタ」を今後も継続します。

- ニュースポーツの体験教室・大会を開催し、ニュースポーツの推進・普及を行います。
- 運動公園を利用したイベントを実施します。
- 函南町スポーツ推進計画（2014年度～2023年度）を推進します。

施策の基本方向

- (1) 体育施設等の整備
- (2) スポーツ活動の充実

主要事業

- ▶ 函南町スポーツ推進計画アクションプランの実行
- ▶ 体育施設整備事業の促進
- ▶ 町民参加型スポーツイベントの充実

協働の視点

生涯にわたりスポーツを楽しめる環境をつくりましょう。

町民ひとり1スポーツの実現を目指しましょう。

めざす目標

成人の週1回以上のスポーツ実施率	
現状数値（2014年度）	36.6%
目標数値（2021年度）	50.0%

運動公園利用者数（年間）	
現状数値（2015年度）	33,485人
目標数値（2021年度）	70,000人

「スポーツのまち函南」宣言

わたしたち函南町民は、スポーツの振興を図り、スポーツを愛し、健康でたくましい心と体をつくり、夢と希望のある、明るく元気なまちづくりを積極的に進めるため、ここに「スポーツのまち函南」を宣言します。

- 1 スポーツに親しみ、赤ちゃんから高齢者・障がいのある人まで、健康で元気に生活できる、生涯スポーツのまちを目指します。
- 2 スポーツを楽しみ、夢や目標に向かって努力する心を育み、青少年健全育成のまちを目指します。
- 3 スポーツに励み、日本や世界に向けたトップアスリートを目指す人材を育成し、夢と希望のあるまちを目指します。
- 4 スポーツを広げ、支え、世代間・地域間の交流を図り、明るく活力あふれるまちを目指します。

函南町はここに「スポーツのまち函南」を宣言します。

平成28年11月 函南町



函南町マラソン大会



かなみスポーツ健康フェスタ

6. 芸術・文化の振興と文化財の継承

社会的な潮流と課題

芸術・文化は、歴史のなかで培ってきた地域の伝統・特色ある景観等重要な要素であり、交流人口の増加や移住につながるなど、地域の活性化を図る新しい動きを支援し、起爆剤となることが期待されています。

一方、少子・超高齢化や単身世帯の増加等の影響により、地域コミュニティの衰退と芸術・文化の担い手不足が指摘されています。

2020年東京五輪の開催に向け、芸術・文化を目的に日本を訪れる外国人を大幅に増加させようとする取り組みもみられます。

解決に向けた町の取り組み

個性と創造性が発揮できる芸術・文化に親しむための施設と環境整備の推進が重要です。

町に住む人々が愛着と誇りをもてるような行事の充実に努め、サークル活動・自主的活動を通して、芸術・文化を創造する機会の充実に努める必要があります。

町内には多くの文化遺産が点在し、我が国の歴史・文化を理解するうえで重要なものも含まれています。それら文化財・文化的資源を指定文化財または登録文化財として保護し、活用を図っています。

なお、文化財の調査研究、保存、公開活用の責務を果たすには専門的な知識と経験が必要となっています。

基本方針

- 町民の文化活動が活発に行われるよう、文化施設や文化団体・企業等、文化を支える様々な主体が活動しやすい、環境づくりを進めます。
- 文化芸術鑑賞会、静岡県巡回劇場、文化祭を支援するとともに、かなみ生涯学習塾、チャレンジ大学、カレッジinかなみ、仏の里美術館等を活用することにより芸術・文化を継承します。
- 仏の里美術館、町内史跡を案内するボランティアガイドの養成・活用を行います。
- 歴史文化基本構想の策定にかかる検討を進めます。
- 町内遺跡のデータベース化を行います。

施策の基本方向

- (1) 芸術・文化活動の育成の推進
- (2) 施設整備
- (3) 郷土芸能・伝統行事への支援
- (4) 各種イベントの開催
- (5) 文化財の指定・登録・保護
- (6) 文化財にかかる資料の収集、調査、研究および成果の公開
- (7) 文化財の維持管理に要する費用の一部補助
- (8) 所有者または管理団体による文化財活用事業への支援等
- (9) 町内遺跡のデータベース化、Web上での公開

教育

社会教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

主要事業

- ▶ 県と連携し、巡回劇場を実施
- ▶ 文化芸術鑑賞会を実施
- ▶ 地域の伝統文化の継承と育成および支援事業
- ▶ 指定文化財の保存整備事業
- ▶ 文化財付随施設の改修・整備
- ▶ 指定文化財解説看板の多言語化サインの整備
- ▶ 町内遺跡管理システムの構築

協働の視点

ふるさとの宝である文化財を守り、継承し、後世に伝えていきましょう。
文化活動へ参加し、人の和を広げましょう。
文化活動の成果を発表する場に積極的に参加しましょう。

めざす目標

仏の里美術館 入館者総数（延べ人数）

現状数値（2016年度）	100,000人
目標数値（2026年度）	200,000人



かなみ仏の里美術館



来館 10 万人を超えた仏の里美術館



国の重要文化財である阿弥陀三尊像

総論

1 将来都市像の実現に向けて

2 基本計画の施策体系

3 基本目標と取り組み

基本目標1
環境・防災

基本目標2
社会基盤

基本目標3
健康・福祉

基本目標4
教育

基本目標5
産業

基本目標6
交流・にぎわい